経営維持の欲求を基礎にしており，主穀の供給を求める都市打ちこわしとは性質が異なる．しかし，どちらも人身にたいする攻撃や放火はなく，金銀略奪も農民の打ちこわしではほとんどみられない．打ちこわしの原理は，周囲の者を没落させるような富の独占にたいする，共同体的制裁の激化した形態であった．幕末期になると，農民の打ちこわしも米価高騰からおこるようになり，都市打ちこわしと連動するものが多くなってくる．　→農民一揆．　（深谷克己）

売上高総利益率　〔英〕gross profit sales ratio　会計上の売上総利益は経済学上の剰余価値に最も近い概念である．このため，次の算式によって計算される売上高総利益率(粗利益率ともいう)の検討が重視される．

$$売上高総利益率=\frac{売上総利益}{売\ 上\ 高}\times 100$$
$$=\frac{売上高-売上原価}{売\ 上\ 高}\times 100$$

この式から明らかなように，売上高総利益率と売上原価率(売上原価と売上高の割合)は表裏の関係にあるから，材料費，労務費，経費のよりたち入った分析が必要である．さらに資本主義のもとでは，大量販売と資本家的〈管理〉をすすめるために，雑多で多額の費用が支出されるので，販売費・一般管理費率((販売費および一般管理費／売上高)×100)の検討と，各構成項目の分析が必要である．　（横倉久夫）

売上高利益率　〔英〕sales profit ratio　利益と売上高の割合で，総資本回転率とならぶ総資本利益率の構成要素である．総資本回転率が一定であれば，売上高利益率を高めることによって総資本利益率を高めることができる．このため大企業は独占価格の形成，原価の切下げなどによってこの比率を高めている．売上高利益率は，通常，売上高経常利益率，売上高純利益率として，次の算式によって計算される．

売上高経常利益率

＝(経常利益÷売上高)×100

＝(売上高－売上原価－販売費及び一般管理費＋営業外収益－営業外費用)÷売上高×100

売上高純利益率

＝(当期純利益〈税引前・後〉÷売上高)×100

＝(経営利益＋特別利益－特別損失〔－法人税等〕)÷売上高×100

このうち前者は各年度の，後者は前期損益修正項目や臨時損益を考慮した収益力を示すものとされる．　（横倉久夫）
→売上高総利益率．

運搬管理　〔英〕material handling　運搬とは，ある目的をもって，物の位置を人為的に変化させることのすべてをいう．いかなる工場であれ，運搬なしに生産を行なうことはむずかしい．ここに運搬管理の重要性が存するが，それはあくまで生産活動遂行のための補助的な手段である．したがって，運搬は独立的には取り扱わず，常に生産工程との関連において考慮することが重要である．運搬管理は，まず第1は，遂行される生産活動にたいする〈最適運搬方法〉を設計し，適用することであるが，これは工場のレイアウト計画(plant layout)と密接な関係を有している．本来，レイアウトと運搬とは別個のものではなく，物の流れに関する問題として統一的に考えることが必要である．第2には，生産に支障ないよう，運搬工や運搬設備等にたいする計画と統制を行ない，〈運搬の効率化〉をはかる必要がある．このためには，時間的総合管理としての工程管理の指示するところにしたがい，運搬の諸活動にたいする計画と統制がなされねばならない．一般に，〈運搬の4要素〉とは，積上げ・積卸し・積載移動・空移動であって，積載移動だけが運搬ではない．とくに，短距離運搬では積上げ・積卸しの効率化が重要であり，これは貯蔵方法(物の置き方)や荷姿が密接に関係してくるため，貯蔵や包装も運搬管理の対象とされている．　→工程管理；生産管理．〔文献〕遠藤健児，運搬管理，共立出版，1967．　（藤川亮吉）

運輸費　〔英〕costs of transportation〔独〕Transportkosten　保管費用と同じように流通過程に延長された生産過程としての運輸過程から生ずる費用である．この費用は一方では車輌，軌道諸設備などの不変資本としての運輸手段にたいする支出にあてられ，他は運輸のための生きた労働すなわち可変資本としての運輸労働者の賃金部分にあてられる．運輸費用の経済学的性格は，運輸過程が流通期間における追加的生産過程の性格をもつことによって規定される．運輸そのものは生産物，商品の社会的需要と供給を空間的に調整斉合するといういずれの社会においても必要とされる物的再生産の基本条件である．このかぎりでは運輸費用もまた生産的性格をもった価値形成的費用であるといえる．すなわち運輸費用の価値的側面からいえば一部は運輸手段からの価値移譲と他の一部は運輸労働による価値追加によって運輸対象の価値につけ加えられる．しかしこの価値移譲，価値追加はあらゆる運輸過程において無制限に行なわれるものではない．いずれの社会においても必要とされるような正常な運輸形態ではなくて資本制生産に特有な運輸形態，たとえば過度な販売競争によって生じる重複輸送や交錯輸送，あるいは投機的思惑のための迂回輸送などの場合にあってはなんら運輸対象たる商品の価値にはいりこむことはない．したがってこれらの非正常な運輸形態に支出される費用は純粋流通費用と同じ性格をもつといえる．〔文献〕マルクス，資本論，第2巻第1篇第6章．　（渡辺公観）

エ

営業権　〔英〕goodwill〔独〕Kundenwohlwollen　のれんともいう．特定企業の超過収益の資本還元価格であり，合併，組織変更，営業譲渡による有償取得に限り，無形固定資産のひとつとして一般にその貸借対照表能力が認められる．特定企業の超過収益の発生原因は，技術，商標，立地条件，人的資質，特殊な取引関係，資本系列等の競争企業にたいする継続的な優位である．これらの発生原因のいくつかは，1570年代初頭のイギリスで，商業上の用語としての〈得意先の好意〉つまりグッドウィルとして認識されている．これが営業権の語源である．

営業権の会計処理上の問題点は，その評価方法と償却方法の2点である．評価方法には大別して直接評価法と間接評価法の2つがある．前者は超過収益額にその推定継続年数を乗じ，後者は企業の全体的評価額から純資産額を控除し，それぞれ営業権の評価額とする．償却については償却不要説(英米で有力)と償却必要説(日独で有力)とが対立するが，償却方法としては費用計上か利益処分かに集約される．営業権の本質から原理的には利益処分方法が正しいが，わが国の商法は取得後5年以内の毎決算期における均等額以上の費用計上方法を規定し(285条の7)，法人税法は費用計上方法による自由償却を認めている(同施行令，48条1項5号)．　→資産(会計上の)．　（酒井文雄）

営業の自由と秘密　私的所有と商品生産に固有の属性であって，前期的商業独占や絶対主義の専売制度，納税者の合意のない一方的徴税など，営業活動にたいする圧制をとりのぞきすべての人間に経済生活の自由と，独立を保障するブルジョア革命の経済的綱領であるとされてきた．これらは先進資本主義諸国の憲法において，住民1人ひとりに保障されている基本的な人権のひとつで，営業の自由は職業選択の自由，営業の秘密は個人の発明・発見・工夫による生業の発展を保障するものであった．

しかしながら資本主義の独占段階は，〈互いのことについて，何も知らない者同士の競争〉にかわって資源や需要や，労働力などの状況を計算し，利潤の確保の見通しを予測し，科学・技術の集団的な開発を事業化しうる金融資本，独占を生みだす．このため一方では，大多数の住民の経済生活において，社会の営業活動の大部分は独占に占有されるために営業の自由と秘密の権利はまったく形骸化し，中小零細業や個人の営業や秘密を守る余地はいちじるしくせばめられ，加えて彼らの営業の秘密は，取引や税務を通じて統計的に把握され，集計されて金融資本の営業のための情報に転化される．他方では，金融資本，独占は，社会の生産，流通，消費，発明，発見の大半を支配し，公職にまで浸透して，すでに住民の多数者の営業の自由と秘密を形骸化しているにもかかわらず，営業の自由と秘密の権利を楯にとって，独占価格の維持，投機，株や土地の買い占めをはかり，住民による原価の公開，利得の実態，企業進出計画の事前公示，公害，環境アセスメントの住民参加などの諸要求を拒否する．かくして，権利としての営業の自由と秘密を侵害される社会の多数者と，公然と他人の権利を侵害しながら，侵害を合法化する形式として営業の自由と秘密に固執する社会の少数者との対立は，一方では，少数者の特権を守るための形式的，官僚的な監査制度や監督，統制の機構をつくりだし，他方では多数者に自由を保障し，少数者の自由を規制する社会制度の創造を促進する．後者は反独占立法，民主的国有化による経済の計画化の試み，銀行の国有化，大資産家，大法人への課税強化などから民主主義的政権による大会社の営業の秘密の廃止にいたる．これらは経済的民主主義の主要内容として大会社と癒着した高級官僚をとりのぞき官僚機

後，イギリスの地位の低下とともに特恵関税の比重が少なくなった．それはGATT体制をつうじた多角的な関税引下げ政策などによるものである．にもかかわらず1973年1月のイギリスのEC加盟前までは，たとえば，イギリスはオーストラリア，ニュージーランドからバターやチーズを無関税で輸入していた．だが加盟後，この制度は消滅した．　（清水嘉治）

ASEAN　→東南アジア諸国連合

AFL-CIO　→アメリカ労働総同盟=産業別組織会議

SSDS　→社会人口統計体系

SNA　→新SNA

SDR　〔英〕special drawing right　〔独〕Sonderziehungsrechte〔仏〕droits de tirage spécial　IMF(国際通貨基金)の一般的引出し権に加えて，加盟国が外貨資金を必要とする場合，それを調達可能ならしめるためにIMFに設定された特別の引出し権で，オッソラ報告を基礎に1969年に成立し，70年に発動された．戦後のIMF体制は，基金自体が短期のドル融資機関であることに象徴されるように，対外的にドルの金交換が可能なことから，ドルを金につぐ有力な国際通貨とし，そのことを根拠にして成立していた国際通貨体制であった．ところが，1950年の朝鮮戦争を契機に，米国の国際収支が慢性的な赤字基調におちいるとともに，ドルの信用をささえた金兌換が怪しくなり，ドルは不安定となり，ドル危機に発展した．この結果，このドルの信用を拠りどころにして成立していた戦後のIMF体制も動揺を余儀なくされ，いわゆる国際通貨危機を招来した．このなかにあって，危機の原因を国際流動性の不足に帰して，国際通貨体制としてのIMF体制の補強の手段を，国際流動性の増強に求める見解が生じた．有名なトリフィンの世界中央銀行案など，その典型的な例といえよう．このトリフィン案の具体化が，IMF内におけるSDR(特別引出し権)の創設である．

SDRは，その名の示すとおり，これまでの，IMFの一般的な引出し権とは別に，加盟国からの出資の負担もなしに，加盟国に割り当てられた特別の引出し権で

ヨーロッパでは，貨幣経済の発達と授封されうる土地知行の不足，国際的規模の錯綜した授封関係などから，貨幣知行(money fief)も広く用いられるようになった．しかし土地知行が封建知行の基本であることにはかわりがなく，主従契約のもとで家臣が主君にたいしてとり結ぶ臣従義務(ヴァサリテート)の反対給付であった．封土が封建法にもとづいて授封され，荘園の形態に編成されることによって，荘園は領主による農民支配の在地的単位を構成した．→荘園(ヨーロッパの)；封建制；領主．　(赤沢計真)

法幣　1935年11月～48年8月，蔣介石政権のもとで中国の法定貨幣として発行された紙幣をいう．31年末以降，世界恐慌の余波をうけた中国経済は9・18事件(満州事変)の勃発とあいまって深刻な恐慌状態におちいり，金融恐慌が激化した．その打開策の一環として，33年3月，蔣政権は廃両改元政策を実施した．しかし同年末，アメリカの銀買上げ政策により中国からの銀流出現象が発生し，対外為替相場の上昇と極度のデフレーションが進行し，金融恐慌はさらに促進された．これにたいして，蔣政権は34年10月，銀輸出税の引上げおよび平衡税の設定など，銀流出防止策を実施したが，十分な効果を発揮しえず，銀の密輸出が頻発した．そのため，35年3月～4月中央・中国・交通の主要3銀行にたいする政府支配力を強化し，同年11月，イギリスの支援のもとに幣制改革を断行した．この幣制改革は，蔣政権による管理通貨制度の導入を明示するものであった．この改革により，上記政府系3銀行(36年1月より中国農民銀行が加わる)を発券銀行とする法幣が発行され，銀は国有化された．またその他の貨幣は，法幣により漸次回収された．この法幣は，ポンドとリンクされ，その標準対外為替相場は，当初対英1シリング2ペンス¼(対米29ドル¾，対日103円)とされた．この幣制改革により蔣政権の金融支配は飛躍的に強化され，後の4大家族官僚独占資本形成の主柱となった．日中戦争以後，法幣発行は蔣政権の戦費調達の重要な財源となり，さらに日本との通貨戦による日系通貨回収のため法幣は増発され，インフレ傾向は促進された．1945年日本軍敗退ののち，国共内戦が勃発し，その資金確保のため大量の法幣が増発され，極度のインフレーションが進行した．このため蔣政権は48年8月，第2幣制改革ともいうべき金円券を新たに発行し，従来の法幣をこれによって回収した(1円対3300万元)が，対策としては手おくれであった．　(野沢豊・平野和由)

方法論争　〔独〕Methodenstreit　1883年にウィーン大学のメンガーが，《社会科学とくに経済学の方法に関する研究》において，ドイツ歴史学派に加えた批判に端を発し，彼と主に歴史学派の指導者，ベルリン大学のシュモラーとのあいだで行なわれた論争．当時マルクス主義の経済理論が形成され普及しつつある一方で，歴史学派は抽象理論に反対し個別具体的な認識に没頭して通俗的な経験主義におちいっていた．メンガーは，歴史学派が経済研究における理論科学，歴史科学および実践的科学(政策)を厳密に区別せず，経済現象の歴史的認識を経済理論の歴史的性格と混合していることを批判した．また歴史学派が理論経済学の方法として重要な〈精密的方法〉(exakte Methode)つまり分析的・抽象的方法を否定して経験的・実在論的方法(歴史的・実証的方法)のみに頼り，せいぜい経験的法則の認識しか追求せず，〈精密法則〉(exakte Gesetze)の認識を志向していないことを批判し，歴史理解は進歩したが経済理論は停止するにいたったと断じた．メンガーは，経済学における理論の復位をはかり，経験につきながら経験を超える方法態度の必要を説いたわけであり，そのかぎりでは一面の真理を衝いていた．したがってこの論争においてシュモラーはメンガーを無視したけれども，実質的にはメンガーの方に分があって，歴史学派の多くはメンガーの主張を承認するにいたった．だが理論の復位とはいっても，メンガーは古典派経済学の理論の核心を継承発展させようとしたのではなく，その解体過程に生じた俗流的傾向を継承したにすぎない．古典学派が経験的自然法とするどい歴史感覚とによって近代社会の核心によく迫りえたのにひきかえ，メンガーは，消費の側面から経済現象をとらえ，その理論には歴史性が欠けていた．この論争が提起した問題は，理論と歴史との関係，理論的なものと歴史的なものとの統一の問題であったが，メンガーは，歴史学派にたいして，歴史性なき純粋経済理論しか対置できなかった．依然として理論と歴史とは分裂したままであり，したがってこの方法論争は真の解決をみたとはいえない．だがメンガーの批判によって，ドイツ歴史学派は解体過程にはいり，M.ウェーバーによってこの過程は完成する．→ウェーバー；メンガー．　(古賀英三郎)

保管費　〔英〕costs of storage〔独〕Aufbewahrungskosten　流通過程にあって生産過程の延長，継続としての保管過程から発生する費用である．具体的には保管のための対象化された労働すなわち不変資本としての倉庫，冷凍庫などの保管設備およびそれらに直接付属する物的装置などの形態に支出される費用部分と，生きた労働たる可変資本としての保管労働者の賃金，荷役費用として支出される費用部分の2つからなる．保管費用の経済学的性格はそれが直接的に使用価値をつくりだすという本来的生産過程における生産費用ではなくて，流通過程の内部でつけ加わる保管過程によって生じてくる生産的流通費用としての性格をもつことである．

つまり商品生産社会に特有な売買費用とは異なって，保管そのものは生産物や商品の社会的に必要な在荷形成にともなって発生する費用としてあらゆる社会において生産的性格をもつといえる．しかし資本制生産社会における在荷の場合，投機的保管在庫，販路の梗塞，景気循環による流通停滞に起因する保管費用は，純粋流通費用としての売買費用と同様に考えられる．したがって保管費用にあっても，社会的需要と供給を時間的に調整斉合するために，また生産物，商品の流通中断を防ぐために必要とされる保管にかぎっては，保管対象の価値にはいりこむのであるが，資本制社会に特有な保管，在荷形態への支出のごとく，必ずしもいずれの社会においても必要であるとはいえない保管費用の場合は価値追加にはならないのである．〔文献〕マルクス，資本論，第2巻第1篇第6章．　(渡辺公観)

簿記　〔英〕bookkeeping〔独〕Buchhaltung, Buchführung　Ⅰ　簿記の意義と〈正規の簿記の原則〉　企業の資本の運動ないしは経済活動を一定の原理と計算様式にしたがって，価値計数的に把握し，一定の目的と役割をはたすための記録・計算・公表の技術．わが国の企業会計原則はこれを〈正規の簿記の原則〉とよんで制度化し，商法はすべての商人(企業)はこれに従うべきことを規定している．だが，現実の簿記は，企業において展開される経済活動をすべて〈貸借平均の原理〉によって正当化し，制度上は〈正規の簿記の原則〉に準拠したものとして合理化されているところに大きな特徴がある．

Ⅱ　簿記の種類　簿記はまず，経済主体の性格によって営利簿記と非営利簿記に大別される．とりわけ資本制生産のもとでは営利簿記＝企業簿記がその中心となる．企業簿記で重要なのは，資本の循環運動形態(業種)のちがいによる工業簿記，商業簿記，銀行簿記，農業簿記等の区分である．その他，簿記方法からは単式簿記と複式簿記に，計算目的のちがいでは家計簿記と企業簿記というように，形態，目的，方法，性格などから分類される．企業簿記は，資産－負債＝資本(資本等式)または資産＝持分(他人資本＋自己資本，貸借対照表等式)を基礎に，企業資本の運動＝取引を資産，負債，資本(貸借対照表勘定)と収益・費用(損益計算書勘定)に分類記録する．この勘定記録をつうじて資本運動を管理統制(勘定的管理)するばかりでなく，決算整理(期間的再分類)をへて期間損益(損益計算書)と結果としての財政状態(貸借対照表)を計算，表示するために役立つ．

Ⅲ　マルクス＝レーニンの簿記規定　マルクスは，《資本論》第2巻第1篇第6章〈簿記〉において簿記の機能を次のように規定した．〈簿記は，過程の調整や観念的な総括としては，過程が社会的な規模で行なわれて純粋に個人的な性格を失ってくればくるほど，ますます必要になる．したがって，資本主義的生産では手工業経営や農民経営の分散的な生産でよりももっと必要になり，共同体的生産では資本主義的生産でよりももっと必要となる〉と強調した．レーニンは，マルクスの簿記規定を正しく受けとめ，20世紀における簿記の機能と役割をいっそう明確にし，《帝国主義論》で，簿記の原理にもとづいて作成される資本制企業の貸借対照表を，その虚構性をついて〈パリムプセストに似ている〉(全集第22巻)と指摘している．そして，社会主義企業での簿記は全人民の利益に役立つものであることを具体的に主張し，〈社会主義は記帳〉(全集第26巻)であるとまでいいきった．さらに，〈20世紀には……記帳と統制――これが，共産主義社会を正しく機能させるために必要とされる主要なものである〉(全集第27巻)と主張し，〈記帳と統制〉がよりいっそう必要かつ重要となることを指摘している．→複式簿記．〔文献〕敷田礒二編，資本主義と簿記，ミネルヴァ書房，1979．／高寺貞男，会計政策と簿記の展開，ミネルヴァ書房，1971．　(成田修身)

簿記史　今日，簿記史といえば，複式簿記の歴史と考えられており，その起源は13～15世紀の北イタリア商業都市に求められている．

Ⅰ　人名勘定(personal account)の生成　簿記は勘定(account)の歴史であり，金銭貸借の経理のために人名勘定として生成した．中世商業は地中海を舞台とした遠隔地貿易と交通の要所で開催された定期市で発達した．銀行家は商人の代金決済業務を代行し，資金の預託・貸付・振替・両替等の業務を行なうために，顧客別勘定を開設し，これを勘定と称して，同勘定に借方・貸方の用語を使用した．その最古のものは1211年ボローニャの定期市で記録されたフィレンツェの1銀行家の帳簿断片である．複記の端緒形態は顧客A勘定の借方とB勘定の貸方に両建記入する振替決済上の会計的表現で，振替記入(cross entry)という．複式簿記完成への道程は，この複記両建実務が利子経理へ拡大されて行く過程である．

Ⅱ　資本主勘定(proprietorship account)の生成　商業の形態が旅商段階から定住商(sedentary merchant)へ移行するにつれ，資本の集中形態としてのコンパニア組織(compagnia)が13世紀後半以降のトスカーナでみられるようになった．コンパニアは期間組合の形態を採り，出資は組合契約成立時に払い込まれ，これが秘密帳(libro segreto)に組合員別にあたかも金銭預託を受けた場合と同要領で記録された．それゆえ，金銭貸借経理の資本主勘定への拡大はきわめて容易であった．当時，まだ費用・収益勘定や損益勘定は知られておらず，〈利益＝資産－負債・出資金〉の財産法で計算・配分された．これをビランチオ(bilancio)といい，秘密帳内に設けられた．

Ⅲ　名目勘定・物財勘定(nominal account；matter account)の生成　勘定における証拠性保全の強化は振替記入の利子経理への拡大として，1290年代以降のトスカーナで損失・利益等の名目勘定を創造した．また，商業への適用は商品勘定の生成をもたらした．利子は利子禁止令を脱法するために慎重に処理され，利子用語の代わりに，利益・原価・贈物等の文字が使用された．いわゆる損益勘定は1320年代にみられるが，より説得性のあるビランチオ上の利益が重視された．損益勘定残高の資本主勘定への振替による両者の接合実務は1340年のジェノヴァ市政庁の元帳にみられる．複式簿記の起源は一般にここに求められている．

Ⅳ　複式簿記の伝播　複式簿記実務を叙述したイタリア最古の書物はパチョーリの《算術・幾何・比および比例全書》(Summa de Arithmetica, Geometria, Pro-

し，サムエルソンに影響を与えた．オリーンは《地域